

田んぼを固めて、秋まで使える溝を作きましょう！

6月も暖かい日が多く、稲の生育は順調に進んでいます。

秋にコンバインがぬかるまないようにするため、田んぼの水を無くして田面を固める作業を始めましょう。

また、夏の暑い時期に素早く水を入れたり、秋の長雨の際に水を排出したりするためには、形の整った溝を作ることが大切です。使用する溝切機の種類に合わせて、田んぼの固さを調整してください。

北陸地方では、例年6月11日頃に梅雨に入ります。雨が降ると田んぼは乾きにくく、きれいな溝をつくるのが難しくなります。稲の生育状況と天気予報を確認しながら、作業を計画的に進めてください。

1 6月10日現在のコシヒカリ生育状況 (拠点ほ場12地点平均、移植日平均5/10)

●草丈「やや長い」、茎数「多い」、葉数「多い」、葉色「並」

区分	本年値	目標値
草丈	33 cm	30 cm
茎数	290 本/m ² (18 本/株)	230 本/m ²
葉数	7.8 枚	7.2 枚
葉色 (SPAD)	37.4	37.0

2 コシヒカリの管理ポイント

- (1) 1か月予報 (2026年6月4日発表) によると、今後1カ月の気温は平年より高めで推移する見込みです。また、平年と同様に曇りや雨の日が多くなると予想されています。このため、稲の生育は順調に進むと見込まれます。
- (2) 溝切りを行った後は水を入れず、中干しを行います。ほ場の条件によって適切な乾き具合は異なりますが、「小さなひびが入る」「軽く足跡がつく」程度を目安としてください。
- (3) 土の表面が白くなり、足跡がつかない状態は乾かし過ぎです。小さなひびが入ったら、数日おきに「水を溜める→数日干す」という管理を繰り返してください。

【用水は限りある資源です。地域で話し合い、公平に使用しましょう！】

次回の発行は、6月20日頃を予定しています。